

＜カレンダーベース市中発行額＞

(単位:兆円)

区分	23年度当初 (a)		23年度3次補正後 (b)		(b) - (a)
	金額	回数	金額	回数	
40年債	0.4	4回	0.4	4回	—
30年債	0.7	8回	0.7	8回	—
20年債	1.1	12回	1.1	12回	—
10年債	2.2	12回	2.2	12回	—
5年債	2.4	12回	2.4 × 8回 2.5 × 4回		0.4
2年債	2.6	12回	2.6 × 8回 2.7 × 4回		0.4
1年 割引短期国債	2.5	12回	2.5	12回	—
6ヶ月 割引短期国債					—
10年物価連動債					—
流動性供給入札	0.6	12ヶ月	0.6	12ヶ月	—
計	144.9		145.7		+ 0.8

(注1) カレンダーベース市中発行額とは、あらかじめ額を定めた入札により定期的に発行する国債の4月から翌年3月までの発行予定額の総額をいう。

(注2) 平成23年度において、40年債は5月、8月、11月、2月の発行を予定し、30年債は4月、6月、7月、9月、10月、12月、1月、3月の発行を予定している。

(注3) 6ヶ月割引短期国債については、割引短期国債と政府短期証券の統合発行(国庫短期証券)を実施しているため、総額のみを計上。

(注4) 平成23年度の10年物価連動債については、償還時の元本保証の付与など商品性の見直しを検討しつつ、市場の状況によっては発行を再開することがある。

(注5) 流動性供給入札の具体的な実施方法は、四半期毎に市場の状況を見ながら決定。